

Jan.2006

ハロー
ホスピタル

Hello Hospital



財団法人東京都医療保健協会
練馬総合病院

<http://www.nerima-hosp.or.jp>

Vol.5

病院の理念

職員が働きたい、働いてよかった
患者さんがかかりたい、かかってよかった
地域が在って欲しい、在るので安心
といえる医療をおこなう。



地域の皆さまと共に

目次

CONTENTS

地域の皆様へ 1

新年のご挨拶 改革断行の年

お知らせ・ご報告 2 ~ 8

新春 座談会 報告

新病院建築 ニュース 第13回 院内研究会 開催

くすりの話 9

下剤 ~便秘の薬~

検査の話 10

~尿を使った肺炎の検査~

健康と食事 11

~高脂血症と食生活~

なんでもQ&A 12



～2006年を迎えて～

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます

練馬総合病院は、地域に根ざす公益法人の病院として運営しております。
地域の要望にお応えするために、本年末には、新病院が竣工し運営を開始する予定です。
職員一同、心新たに、より良い病院創りに向けて、活動します。
本年も、より一層のご支援、ご指導をいただきたく、よろしく願い申し上げます。

改革断行の年

院長 飯田 修平



社会の動き

デフレが脱却したのか否かという議論があります。バブル以来の収益を上げる企業や産業分野がありません。われわれ庶民や、医療界では不景気風しか感じません。勝ち組と負け組が明確になっています。

社会制度改革が進みつつあります。自由、権利、個の尊重を重視する風潮にあります。その実現には、規制緩和、情報開示、評価が鍵になります。結果として、説明責任（アカンタビリティ）が問われ、透明性が確保されます。ただ、開示する

だけではなく、分かるようにしなければ意味がありません。医療界でも、このことが問われております。私たちが、患者や国民に分かるように示し、説明をしてこなかったつけが来ているのです。

練馬総合病院では、平成5年から、「私たちの病院の目標」として倫理綱領を公開し、カルテ開示も行い、患者さんの意思を尊重する運営をしております。

新病院建築

昨年9月に着工し順調に工事が進んでおります。当初は、職員をはじめとする関係者にも、本当に実現するのかという疑心があったようです。ないない尽くして始まりましたが、どうしても実現したいという熱意をなくさなかつたお陰で、ここまですることができました。土地の確保、資金調達、許認可等も円滑に進んでおります。職員、役員、地域住民、行政、設計事務所、施工業者等々関係者の絶大なるご協力の賜です。

後述の、新春懇談会記事でも、内容を紹介しておりますが、練馬区では、急性期医療を提供する施設が不足しております。また、救急体制もより一層充実させます。

第5次医療法改正

本年4月に、医療法改正があります。医療費抑制政策の中、質を担保する活動に対する診療報酬での評価が予定されております。

大学病院本院などの特定機能病院で実施しているDRGによる診療報酬請求を当院も実施する予定です。DRGとは日本独自の包括支払い制度の一つであり、DRGの診断名（コード）と手術や大きな処置のあるなし、併存疾患のあるなしで、一定の診療報酬が変わります。効率的な医療の提供が求められます。医療側も患者側にも価値観の転換が必須です。

新しい取り組み

ハード（建物・医療機器・情報機器）もソフト（仕組み・運営・ソフトウエア）も新しくなり、人心も一新して、今まではできなかった医療や運営が可能になります。ICTがの実証実験を行うなど、情報システムの改訂により、待ち時間の短縮、説明のわかりやすさ、データの活用ができます。

地域・区民の皆様のご支援をよろしく願い申し上げます。



懇・談・会

練馬総合病院 7階講義室で近隣の町会長様と新春懇談会を開催しました。



町会出席者

旭丘2丁目町会
桜台新和町会
桜台2・3丁目
町会連合会
豊玉第一町会
栄町会
練馬中央自治会
旭丘東町会
小竹町会

天野 文男
大阿久 紳介
岡本 信義
金子 定生
久久宇 章
篠 囿彦
関口 知一
田口 弘一
松本 春雄

五十音順（敬称略）

病院出席者

理事長 林 芳男
会 長 小泉 知定
理 事 田中 美義
院 長 飯田 修平
副院長 柳川 達生
副院長 飛弾 進
看護部長 高橋 礼子

林理事長

あけましておめでとついでございます。昨年は大変お世話になりました。ありがとうございました。

新病院の件では皆様にご理解とご協力をいただき、昨年9月に地鎮祭を行ない無事着工することができました。

あらためて地域の町会長様をはじめ皆様方に御礼を申し上げます。

練馬区長、区議会への建築の支援請願も皆様のご協力を得て提出し、区議会特別委員会を経て、請願採択の通知をいただきました。皆様のご尽力のおかげです。今までに地域に多大な貢献をしてきたことを評価していただいた結果です。

新病院も11月末に完成予定です。

今、医療を取り巻く環境が非常に厳しい状態になっております。診療報酬が最大幅での引き下げになり、病院にとっては大変になると思います。良質な医療を提供し、職員が安心して働ける病院にしなければなりません。そのためには経営の安定が必要です。今年は大変な正念場になっていくと思いますが、よりよい病院作りには皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



飯田院長

あけましておめでとうございませう。昨年は大変お世話になりました。

近況報告

近況報告をさせていただきます。病院建築を昨年9月に着工し、順調に進んでいます。

平成17年はいままで一番厳しい年でした。色々な要素がありますが、第1は、医療の仕組みが変わったことです。患者さんの自己負担増や景気が悪いことで受療行動の変化があります。順天堂練馬病院の進出もあります。

本年4月には診療報酬改定があります。全体で3.16%、医療本体として、

日新聞にも私の発言が記事にされました。

回覧している本は昨年出版したものです。昨年だけで5冊出版しました。このような成果をだせるのは当院だけです。莫大なエネルギーを注ぐことができたのも病院一丸となった当院の力です。関係各所からの評価が高まり、病院建築についても許可や絶大なご支援をいただいております。融資もそのひとつです。今後も病院の総力を結集し、足元をかためる必要があります。医療の質向上活動自体も病院の状況に合わせて変えてきました。

研究、研修に関しても各専門職種が学会・研究会で報告しています。練馬総合病院が中心となって研究会・勉強会も行っております。医療関係だけではなく、様々な分野の方が諸外国からも来ています。

公益法人としてふさわしいかどうかといわれますが、今やっていることが、財団法人を維持していくための重要な活動です。社会医療法人が検討されていますが、当院の財団が見本になっています。そのまま移行してもおかしくないと考えます。

近隣の診療所や病院との連携、創傷ケア、在宅医療研究会への参加等

様々な活動をしております。練馬総合病院の特徴を出すことが重要です。

公的な病院関係の委員等にも当院指定で依頼をされています。民間病院として経済産業省や厚生労働省の科学研究費事業にも参加しています。大学病院や大病院ではなく、中小の病院でここまで活動している病院はあまりありません。電子カルテ、ICタグの実証実験も昨年からは始まっています。大学病院ではじまっています。民間では当院が指名されて、実証研究します。

当院の薬剤科職員が特許を取得しました。病院に勤めながら高度な研究を行ない、特許をとるような勉強をするのはすばらしいことです。

重要な医薬品の治験の依頼がありました。当院の能力を評価されたことです。病院の収益にも関わり、非常にうれしいことです。今までの色々な活動が評価されています。このような様々な仕組みの中で経営的にもメリットを出しております。

当院は管理型の臨床研修病院で、当院独自の研修をしており、3名の研修医がいます。今年も慶応から1名を含めて3名の研修医がくることになっています。古い病院でさえこれだけのこと

小泉会長

あけましておめでとうございます。平日頃よりお力添えをいただきありがとうございます。練馬区への依頼も通りました。

練馬総合病院が地域にあった医療を続けてまいりますので、今後とも宜しくお願いたします。

13.6%のダウンです。病院としては非常に厳しい状態にあります。最近の新聞の論調も変わってきました。このままでは急性期医療がだめになる。急性期病院への配分をするべきである、と書いてあります。私もこれだけ医療の質をあげるためにやっている」と主張してきました。昨年末の朝

ができるのだから、新病院になれば更なる展開が期待できます。



(病院外観図)

新病院建築に関して

新病院に関してですが、昨年1月に土地の売買契約をし、4月に引き渡しを受けました。6月に建築確認、9月に着工し、進捗は順調です。設計についても震度7に耐え機能するとの確

認をとっておりません。狭い中でもどうやって高度で安全安心の医療を行うか考えていますが、資金的制限もありません。各部署から追加要望が出ていますが、地域の医療に貢献するために実施したいと考えております。地域の方が認知し、ぜひかかりたいと思い、安心して医療を受けていただけるようにすることが目的です。

構造や仕組み、特に情報システムが大事です。新病院でいきなり導入してもうまくいきません。普通は建築時に電子カルテを導入しますが、うまくいくところはありません。そのために国の補助金をいただき電子カルテを先行導入しました。資金的には厳しいですが新病院では更に情報システムの機能を上げます。

VE (Value Engineering) を行ない、要望を取捨選択しています。外部の方々からは、練馬総合病院が新病院を作るのだから、理想的な良い病院を作るのだからと期待されています。土地と時間と資金の制約があるので、私が考えている理想の半分もできません。しかし、今までの活動の成果を結集し、なんとか予算の範囲内で職員にも喜んでもらえる、いい病院を創りたいと考えます。

将来的には隣接する土地を手に入れた、本院と別にもうひとつ作りたい。例えば学校用地を借りることができれば素晴らしい展開ができます。次の世代でがんばって欲しいと思います。平成3年に院長就任の挨拶で職員に、「病院を立て直そう」と言いました。立て直すとは二つの意味があったのです。ひとつは経営再建であり、もうひとつは文字通り新しい病院の建築です。今やっと、その約束を果たすことができます。皆様方のご支援のおかげで次の段階に進む事ができました。

来年の今頃には新しい病院で診療を開始する予定ですが、まだまだ紆余曲折はあると思います。厳しいですが、常に上を目指して頑張ります。質の向上が診療報酬に評価され始めました。練馬総合病院の特徴を出したいです。絶大なご支援をお願いいたします。ありがとうございます。

田口：

理事と町会長をしております。厳しい立場です。町内の方に4回の説明会を行ったが、不満等のある方が多々ありました。昨年の12月17日に町会の方に、もちつき大会をやってくれました。200名の予定を超える約400名の方々に来ていただきました。構造設計

の話題が出ていたが、震度7ぐらいの地震でも倒れないと説明したところ、大多数の方がわかってくれました。大変なごやかな会でした。

今回のもちつき大会で練馬総合病院、竹中工務店、町会のパイプができたと思います。

飯田：

近隣の方々とは今後も良い関係を築きます。よろしく願いいたします。

天野：

旭丘2丁目町会として大変お世話になっております。新病院建設地に近いのでよく見に行っております。

新病院の説明会に出席し、トラックの進入経路等もスムーズで、警備員もきちんとやっていたと聞いて安心しました。耐震問題も大丈夫だと聞いて安心しました。跡地もよい利用ができるといいですね。練馬総合病院は何十年も歴史があり、大変お世話になりました。

松本：

町会として竣工の日を楽しみしています。林理事長と飯田院長の話聞き、地域の我々としても病院と共存共栄していきたいと考えております。近所で具合の悪い方に、練馬総合病院に行きなさいと言いました。高齢者で病院に行けないという方がいたので

息子の車に乗せて連れて練馬総合病院に紹介したことを大変感謝されました。これからもさらに内容を充実し、進歩することを期待しています。

篠：

新病院については栄町から少し遠くなります。高齢社会になって、介護を考えると近い病院のほうがいい。

町会の会合では新病院に対する話題は少ないです。順天堂練馬病院が完成しても興味はなかった。糖尿病、甲状腺はどうなのか関心があります。車で行けるようにしていただきたい。

西武線南側は便利だが、北側は不便なので行きにくい。練馬総合病院が出来るが、つてから住民などに見学させていただきたい。

飯田：

新病院見学会も予定しておりますので、おいでください。現在も、外部の方の見学依頼は多く、病院関係者だけではなく、行政や一般企業の方、外国の方もいらつしゃいます。

大阿久：

練馬総合病院に、高い評価をしています。町会員は自分が病気ではない時は病院に関心はありません。ですから地域密着性を高める工夫をしたほうがいいのではないしょうか。

敬老の日講演会に参加しました。救急処置やお酒の話など、すばらしい中身でした。ただし、練馬公民館だと町会からちょっと遠いです。講演の際に住民に向けて無料で医療相談が受けられますと言っていました。

MOI活動はすばらしいが、地域の方が知らないのは不幸です。病院の選択にも影響します。

町会として安全、安心で住める町とすることやっています。

高齢者の問題は個人の問題ではなく社会の問題なので、高齢者に焦点をあてなければいけません。病気が増えているのも事実です。高齢者に講演会に行ってもらい、練馬総合病院をより多くの方に知ってもらいたいです。

町会主催で病院にお願いして講演会などを行ない、地域の認識をあげなければなりません。今年町会からもお願いします。新病院の進捗状況等、掲示板や回覧板を利用していただいてもかまいません。そうすれば認識度が高まるのではないですか。

飯田：

おっしゃっていただければ、講演会等いつでもやらせていただきます。ご希望の内容に適切な職員を派遣します。他の町会の方も宜しく願います。

大阿久：

ではぜひ3月までにお願います。

岡本：

消防懇親会で署長の話を聞きました。5時間間わたって救急の患者さんの受け入れをお願いし続け、最後に練馬総合病院に引き受けてもらい感謝しております。今後も救急に力を入れていただきたいと考えます。

救急医療の関係もあり、消防署との連携を深めたらどうですか。

飯田：

今まで以上に救急を万全にします。

新病院では大小の救急室を3室つくり、産婦人科専門の部屋もつくり、人員配置を考えます。

小泉：

ホームレスの方が5時間、どこも受けられなかったが、練馬総合病院は受けてくれて感謝しています。

大阿久：

私が交通事故にあった時は、3分で受けてもらいました。非常に感謝しています。

飯田：

内科、外科系、産婦人科の3名の医師が毎日当直しています。救急患者さんは、365日、時間外・夜間も特別な治療が必要な方や入院ベッドが無い以外は、受けております。緊急手術も可能です。

久久宇：

子供達が病気や安全面で危険な状態にさらされています。救急の時にどこの病院に行つていいのか迷っているで学校との連絡を密にやしてほしい。母も練馬総合病院にかかっています。待ち時間が長い等、アンケートを見ると待合室の不満が多いので、検討していただきたい。

飯田：

小児科は常勤の医師がいない為、夜間当直はしていませんが、ある程度年齢のお子さんならば大丈夫なのでお願いください。

国立小児療育センターの元総長の松尾医師が外来診療をしております。外科についても大腸直腸の専門の前帝京大学教授の小平医師が外来診療しています。相談外来（ピアレント）を整備します。皆様方に広報をお願いします。

関口：

新病院まで距離的にはだいぶあります。練馬総合病院にかかっている患者さんは多くいます。なによりも口コミが大事です。いい先生がいるという口コミ情報が飛んできます。

毎月自治会だよりを出しています。病院の事を詳しく知りたい。病院とのコミュニケーションをとるということで、飯田院長と柳川副院長先生に文章を書いていただきました。

大腿骨骨折で練馬総合病院に非常によくしていただいて、町内の会議でも話もちきりでした。いい病院なのでどんどんPRしてもらいたい。口コミは大事です。院長には新年会に来ていただきたい。

飯田：

会合でも、講演会でもお呼びいただければ、参加させていただきます。

金子：

昨年、町会長連合会副会長を下さり、相談役になりました。新病院の件では大変なご苦労だと思えます。いい病院、悪い病院は口コミで広がります。知り合いが整形外科で手術をしたら大変よかったです。口コミで広がっています。医療の質も職員もいい

と言われています。病院に入院すれば家族は病院に通わなければならぬので、近いといいと言っています。前向きな取り組みは評価されています。新病院でも地域医療により一層貢献していただきたい。

小彼：

自分がよければいい病院、悪ければ悪い病院になるから、口コミは主観的です。名刺を渡して、練馬総合病院に行けばいいと言ったら安心してくれると思う。町会長の紹介なら大丈夫だと思ふ。新しくなる病院をぜひ宣伝したい、飯田先生の真剣さはよくわかるので、利用させていただきたい。名刺を持ってきた患者の窓口がほしい。



掲示板の利用は難しいので、そのような方法もあるのではないのでしょうか。

飯田：

いまでも、町会長様などからご紹介いただいた患者さんに対しては、きちんと対応しております。窓口は、何でも相談室

の菊井事務長代行か柴田課長あるいは楠田医事課長です。その誰かに、ご連絡ください。

柳川：

今後は地域の先生方と密着して、地域の会合に出て、連携を一層強化します。例えば糖尿病の患者さんに来ていただくために、様々なことを行っております。糖尿病療養指導士を医師だけでなく看護師・薬剤師・検査技師などの専門職が勉強しています。大学病院に行かなくても対応できる医療を提供します。今後とも宜しくお願いいたします。

田中：

おめでとうございます。本日のお話聞いてよかったです。本当の意味で練馬総合病院が地域の為の病院になってきたと感じました。

遠方から来ている患者さんも多いので、いい病院だと知って患者さんが来るのではないのでしょうか。また、近隣の方が多くなるのは近隣の町会長のおかげだと思います。

順天堂練馬病ができて、老人健診の数は減っていません。病院だけ新しくなってもダメなので、みなさんの力をいただきたい。

急性期病院の生き残りは大変厳しい問題ですが、地域での役割も重くなっていくとは思いますが今後ともご支援いただきたい。

飛弾：

地域密着型の話を伺い非常に参考になりました。近くに住んでいながら練馬総合病院とは関係ないという方が多いと思いますが、ぜひ知っていただきたい。地域の中で生きていくには皆様方とも連携して認知していただければなりません。

大学病院と違い全科はそろえられませんが、地域連携を充実します。順天堂練馬病院ができましたが、大学病院の分院です。連携して医療の棲み分けをします。今年は新病院の地を固める年にいたします。

高橋：

ご指導をいただきありがとうございます。教育の年間統一主題の「創る」を一年間努力しました。地域や職員が求める病院創りに、人、物、運用、情報を検討しました。自分達の業務を見つめ直す良い機会でした。

今後、病院選定の基準がますます高くなります。職員が働きやすい病院にしなければなりません。今後とも宜しくお願いいたします。

小泉：

本日の話しは大変参考になりました。当院も真剣に地域の病院として要望にあった病院にします。

紹介されるとあの先生がよかったなどと言っているところがあるので、紹介は大変大事です。ぜひ名刺を出して紹介していただきたい。皆様方のご協力を賜りたいと存じます。

篠：

救急車でくる場合は総合病院がいい。具合が悪く診てもらいたいときは総合病院にきて、どこが悪いのか診てもらってから診療所に紹介してもらえばいい。練馬総合病院の宣伝方法はあると思います。病診連携のルールとか、救急対応等町会で説明するなどはい方法です。

飯田：

他の医療法人とは設立主体が違い、公益的な様々の活動を展開しております。公益法人としての医療を展開していくことが重要です。

50 数年区内の医療を支えてきました。当院では大学病院本院のようにすべての特殊の医療はできません。医療連携が重要です。その一環として、紹介率も 30% を超えており、紹介加算もとりました。逆紹介にも力を入

れています。待ち時間対策として予約制を導入しました。予約率を上げるために努力していますが、まだまだです。前のように3時間も待つようなことはなくなりました。患者さんに選んでいただける病院にします。

大阿久：

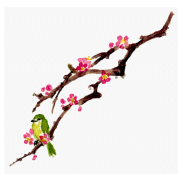
患者さんから、練馬総合病院に指名があるような病院になるのがいい。地域密着型の病院になってください。

飯田：

ご意見やご要望をどう反映するかが大切です。今からできることはいたします。ご支援をお願いいたします。本日はありがとうございます。

林：

区への支援の誓願に対しても、地域連携、紹介、逆紹介の強化を言われているので今後いろいろやっていかなければなりません。今年は躍進の年です。本日の話しは大変参考になりました。いいところは新しい病院に反映しがんばっていきます。よろしくご指導ご尽力をお願いしたいと思います。本日はありがとうございます。



新病院 建築ニュース

12月17日、工事現場近隣の皆様を
ご招待してお餅つき

地鎮祭が終了し、基礎工事へと進みました。
12月中には地下基礎面のコンクリート打ち
込みが完了し、1月から地下1階の床工事が
始まり、順次上階へと工事が進んでいます。



第13回 院内研究発表会 開催される

平成17年12月9日(金)午後5時から7階講義室において、第13回院内研究発表会が開催されました。院内研究発表会は、当院の職員が今年対外的な発表をして、数多く発表した中でも評価を得た研究の成果を報告する場です。今回は8演題の報告がありました。発表者は医師、看護部、薬剤科、検査科と多岐にわたり、内容も症例報告、研究活動、MQI(医療の質向上)活動など多様なものでした。活発な発表・質疑応答が行われた後、発表の内容、態度などについて審査が行われ、下記の方々が表彰されました。来年度も多くの研究成果の発表を行い、更なる医療の質の向上を目指します。

最優秀賞： 薬剤師 鈴木佳寿子

(第48回日本糖尿病学会にて発表)

優秀賞： 外科医師 井上 聡

(第35回日本創傷治療学会にて発表)

努力賞： 外科医師 松浦芳文

(第59回日本消化器学会にて発表)

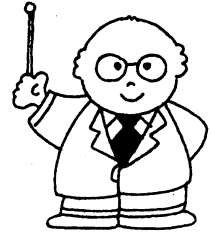
努力賞： 薬剤師 大山由紀子

(クオリティフォーラム2005にて発表)



くすりの話

下剤 ~ 便秘の薬 ~



当院採用の薬剤

一般的に用いられる下剤には大きく分けて、刺激性下剤と機械的下剤の2種類があります。

刺激性下剤：薬の成分あるいは代謝物が直接腸を刺激して排便を促します。効き目がすぐ現れ、強力ですが、長く続けて使うと習慣になり、かえって腸の自ら動く力が弱まるので注意が必要です。一定期間だけ、上手に使用しましょう。

アロゼン (0.5g/1.0g)、フルゼニド：センナという薬用植物に由来します。効果が出るのは8〜12時間後ですので、基本的に寝る前に服用してください。尿の色が赤っぽくなることがありますが薬の色なので心配いりません。

・ジュン、ラキソベロ液、テレミンソフト坐薬：センナ由来のものより効き目や習慣性がソフトな薬です。ピコペン錠剤、ラキソベロ液は液体、テレミンソフトは坐薬と剤形も様々。ラキソベロ液は滴数で調節が可能です。成人10〜15滴を目安に使用してください。

機械的下剤：腸内に水分を引き寄せ、便を柔らかくしたり量を増したりすることで排便を促します。効き目は穏やかで、長くのみつづけても効

果が落ちません。慢性の便秘の方に向いています。

・酸化マグネシウム (0.39g/0.59g/0.67g/1.0g)：通称「カマ」と呼ばれています。粉薬なので症状にあわせて量を調節することができます。1部の抗生物質やジギタリス製剤と一緒に飲むと、吸収を遅らせることができるので注意してください。

新レシカルボン坐薬：腸内で炭酸ガスを発生させることによって腸の運動を活発にします。

下剤の上手な使い方

下剤は、寝る前（あるいは決められた時間）に服用して朝食後に排便がある、というのが理想的なのみ方です。夜中にトイレに行きたくなったりお腹が痛かったり、下痢をするような量が多すぎると思われます。逆に、朝食をとっても便意が起きない場合は下剤が弱いか量が少ないのかもかもしれません。

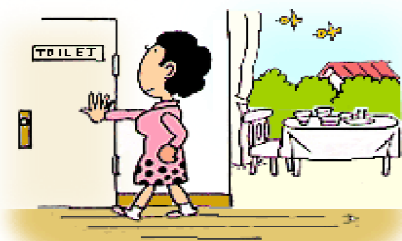
下剤を長く使っているうちにやめられなくなり量も増えてしまったという方は、のむ量を少し減らし、代わりに運動や食事を改善し数週間様子を見て、再び減らすといった方法が有効です。医師や薬剤師にご相談のうえ自分に合った使い方を見つけてみましょう。

女性に便秘が多いわけ

便秘は一般に女性に多く、また歳をとるにつれて増えていくと言われています。これは女性の性周期の変化が1つの要因となっています。女性の体が分泌する黄体ホルモンに大腸の運動を抑える働きがあるのです。

使用にあたっての注意

便秘の治療の基本は、生活習慣の改善と食事療法であり、下剤はあくまでも最終手段です。朝トイレに行く習慣をつけたり運動をしたり、ストレスを減らすような生活の改善と、朝食を食べる、食物繊維をとるなどの食事の改善は行いましたか？それらが基本にその補助的手段として、上手に下剤を活用してください。



検査の話

尿を使った肺炎の検査



肺炎とは？

肺炎はさまざまな病原菌が肺に侵入して起こる急性の炎症です。罹患率が高いうえ死亡率も高い疾患で、迅速な診断と適切な治療が必要です。市中肺炎（一般の生活をしている人が罹る肺炎）には大きく分けて細菌性肺炎と非定型肺炎があります

が、両者の治療法や薬剤の選択は大きく異なるため鑑別が必要です。

日本呼吸器学会が「成人市中肺炎診療ガイドライン」を改定したことに伴い、当院では迅速検査項目として、尿を検査材料としたレジオネラ・肺炎球菌の検査を行うことになりました。今回はこの検査について紹介いたします。

レジオネラ、肺炎球菌とは？

レジオネラ (Legionella pneumophila) 非定型肺炎の原因となる菌のひとつです。水や土壌など自然界に広く存在し、近年汚染された循環式浴槽や給湯設備からの感染が問題となつています。レジオネラ肺炎は、重篤化するこ



どんな検査なの？

これらの菌の検査法として喀痰などの培養検査があります。培養検査は、菌を育てて検査するため結果が出るまでに最低2、3日と時間がかかります。しかも喀痰には気道や口腔内の常在菌が混ざるので操作や原因菌の見極めに熟練を要します。

しかし今回、当院で取り入れた検査法は、尿を検査材料として操作が簡単で検査時間も15分で結果が出るというものです。

< 当院で使用している試薬です >



肺炎の検査なのに なんで尿を使うの？

体内で増殖した菌の一部が尿に移行するので、それを検出します。

* 尿中検査のメリット

喀痰や血液と違い患者さんに負担なく検体採取できること。
腎臓の働きによって、菌抗原濃度が血中より濃縮されることにより検査精度が高くなること。
誰がやっても正しい結果が5分でお出ること。

従来から実施しているインフルエンザの迅速検査に合わせて、この検査を取り入れたことにより、肺炎の原因推定に必要な結果を迅速に出すことが出来ます。早く結果が出れば、適切な治療も早く始められ、治るのも早いです。

皆さん、寒い季節の中、カゼをひかないよう手洗い、うがいを心掛けてみましょう・・・。



健康と食事

高脂血症と食生活

何でも Q&A



Q 2、3日前から風邪気味です。咳が出て少し熱があります。小さな子供が居るのでインフルエンザが心配です。最近、鳥インフルエンザも話題になっていますが大丈夫でしょうか。

練馬区 27 歳 主婦



Q インフルエンザは、急激な高熱（38-40）、関節痛、筋肉痛、倦怠感などの全身症状が強く出るという

特徴があります。一方、通常の風邪

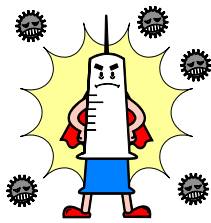
は、発熱は軽度で、鼻汁、咽頭痛、咳などがみられますが、全身の強い症状はあまりありません。通常のインフルエンザは健康な人なら、5日間前後で自然に解熱し、治癒します。

タミフルという薬は、発症後48時間以内に開始すれば有効で、解熱までの期間をおよそ1日短縮します。高齢者や乳幼児は、インフルエンザにかかると、肺炎や脳症などを合併して重症化することもあり、注意が必要です。

インフルエンザ対策としては、ウチン接種と外出後のうがいや、手洗いなどで予防することが重要です。

問題になっているヒトの鳥インフルエンザ（H5N1）は、まだ日本では発生しておらず、世界的にもまだ散発している程度なので、現時点ではまず心配する必要はないでしょう。もちろん、日本での流行が認められれば嚴重な注意が必要です。

内科医師 豊田丈夫



このコーナーでは、皆様から寄せられた病気や健康などの質問・疑問に、それぞれ専門の立場からお答えいたします。

疑問・質問などは・・・

当院広報委員会に郵送、またはE-mailされるか、院内に設置のご意見箱に投函してください。

E-mail : info@nerima-hosp.or.jp



第10回 MQI 活動発表大会を開催します

当院では平成8年から医療の質向上活動（MQI活動）に取り組んでいます。MQIは、Medical Quality Improvement（医療の質の向上）の頭文字からとったものです。

活動は、MQI推進委員会を中心として、全部署、組織をあげて取り組んでいます。活動テーマは、顧客満足、業務の効率化、診療の標準化、医療事故の未然防止、安全確保などいづれも医療の質の向上を実現するものです。

本年の統一主題は「創る」です。各チームが医療の質の向上をめざして活動に取り組んでいます。

来る平成18年3月25日（土）午後1時から活動報告を行います。

地域の皆様のご参加を職員一同お待ちしております。是非、私たちの病院の医療の質向上への取り組みと成果をご覧いただきたいと思います。詳しい内容は後日、院内の掲示や当院のホームページでお知らせいたします。

次号は、第59号 平成18年4月1日発行です。

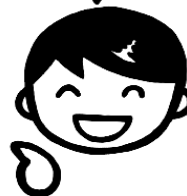


広報委員会では、当院に対する皆様からの
ご意見・ご質問など(その他何でも結構です)
お待ちしております。

院内に設置してあるご意見箱、または
E-mailでお待ちしております。

* ご意見箱設置場所 * 各階エレベータ横
玄関入口

お待ちしております

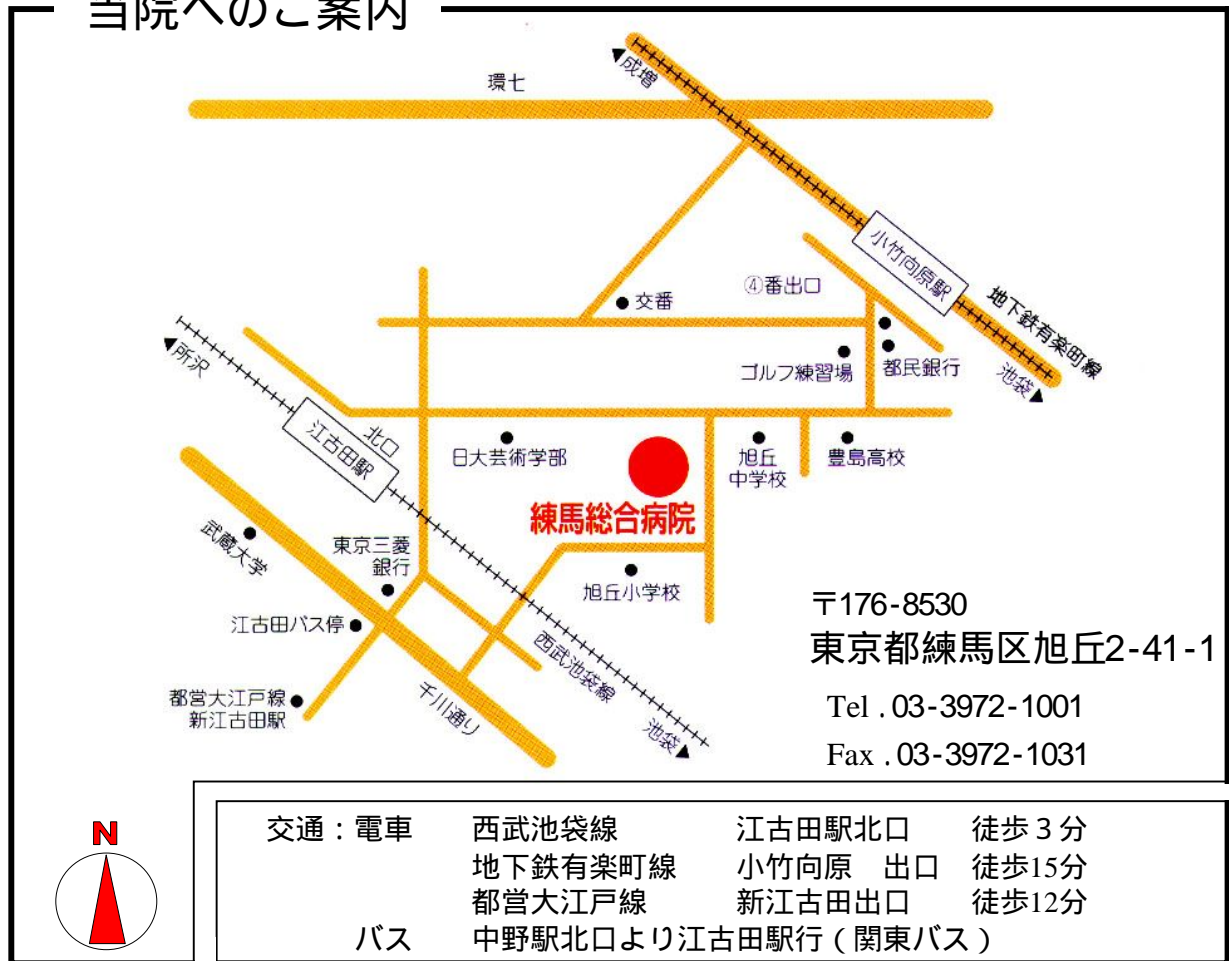


連絡先 Tel 03-3972-1001 Fax 03-3972-1031

e-mail : info@nerima-hosp.or.jp

<http://www.nerima-hosp.or.jp>

当院へのご案内



診療科目 内科 / 外科 / 整形外科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 産婦人科 / 眼科 / 耳鼻咽喉科 / 小児科 / 脳外科 / リハビリテーション科 / 放射線科

人間ドック / 脳ドック / 癌検診

受付時間 午前の診療受付 午前8時～午前11時
午後の診療受付 正午～午後4時

休診日 土曜日 / 日曜日 / 祝祭日 / 年末年始
急患は年中無休で24時間診療いたします

24時間救急受付 当直医常時3名体制
(内科 / 外科系 / 産婦人科)

「ハロ・ホスピタル」: 第58号
平成18年1月1日発行 (年4回発行)
発行 / 編集
財団法人東京都医療保健協会
練馬総合病院 広報委員会